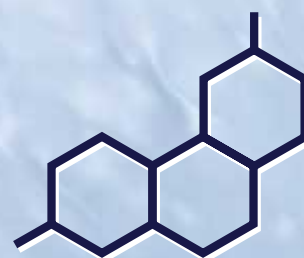




大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.  
のびゆく力、未来へ

# 会社説明会および 2008年11月期決算説明会資料

2009年1月16日



## 目次

- I. 2008年11月期連結決算 …… p.2
- II. 2009年11月期連結業績予想 …… p.8
- III. 成長戦略・中期事業計画の状況 …… p.23

# I. 2008年11月期連結決算

## 業績概要(連結)

(百万円、%)

	07/11	08/11		
			増減	前年比
売上高	24,426	24,539	113	100.5%
営業利益	2,108	1,133	-975	53.7%
経常利益	2,187	1,190	-997	54.4%
当期純利益	1,325	331	-994	25.0%

■売上高:前年比 100.5%

●特殊化学品電子材料G等の増収が、エステル化製品の減収をカバー。

■営業利益:前年比 53.7%、経常利益:同 54.4%。共に減益。

●原燃料価格高騰によるコストアップ。棚卸資産の評価に関する会計基準早期適用。

■当期純利益:前年比 25.0%

●投資有価証券評価損。

## 部門別売上高(連結)

(百万円、%)

	07/11	08/11		
		増減	前年比	
売上高	24,426	24,539	113	100.5%
エステル化製品部門	12,607	12,041	-566	95.5%
特殊化学品部門	10,579	11,169	590	105.6%
有機合成品部門	943	1,158	215	122.8%
営業利益	2,108	1,133	-975	53.7%

■エステル化製品部門・・・前年比 95.5%

●アクリル酸エステルは横ばい、メタクリル酸エステルは減収。

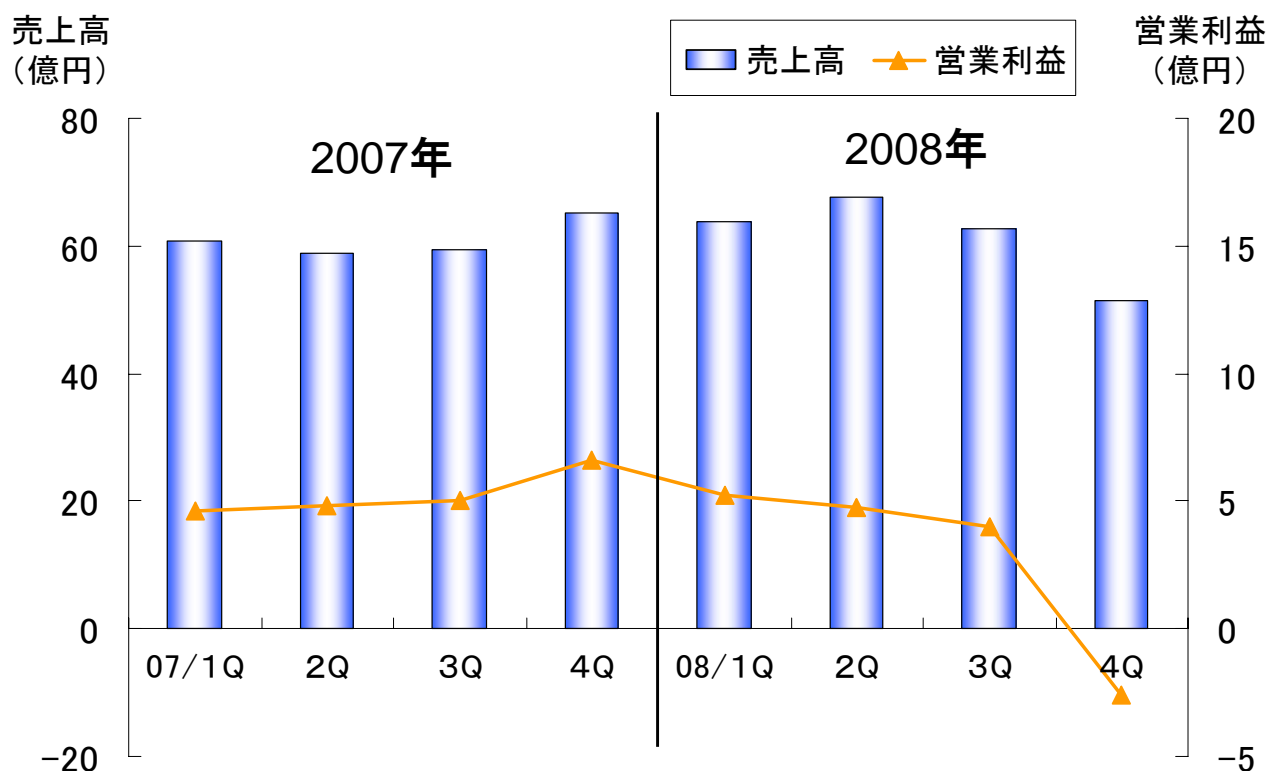
■特殊化学品部門・・・前年比 105.6%

●電子材料及びその他ファインによる増収。

■有機合成品部門・・・・・・前年比 122.8%

●粘接着剤向けアクリル酸モノマー値上による増収。

## 売上高と営業利益の四半期推移



## 比較連結貸借対照表

(百万円)

項目	07/11末	08/11末	増減	備考
<b>資産合計</b>	27,095	26,573	△521	
流動資産	12,492	12,208	△283	受取手形・売掛金の減少
有形固定資産	11,602	11,497	△105	減価償却の減少
投資その他の資産	3,000	2,864	△136	長期性預金の減少
<b>負債合計</b>	7,225	7,577	352	
流動負債	5,471	6,130	659	未払金の増加
固定負債	1,754	1,447	△306	社債・長期借入金の減少
<b>純資産合計</b>	19,870	18,995	△874	自己株式の取得
少数株主持分	201	192	△9	
<b>負債純資産合計</b>	27,095	26,573	△521	

## キャッシュ・フロー（連結）

(百万円)

項目	07/11	08/11	備考
営業活動による キャッシュフロー	2,557	3,117	売上債権減少額 1,739 有価証券評価損 246
投資活動による キャッシュフロー	△1,681	△1,190	投資有価証券取得 △1,114
財務活動による キャッシュフロー	△392	△871	自己株式の取得 △403
現金及び現金同等物の 増加額	484	1,055	
現金及び現金同等物の 期首残高	208	693	
現金及び現金同等物の 期末残高	693	1,748	

## II. 2009年11月期連結業績予想

### 当社を取り巻く環境と今後の取り組み

#### 当社を取り巻く環境

1. 世界的な金融危機による各産業界の不振
2. 液晶・半導体業界の大幅な環境変化
3. 自動車業界をはじめとする各業界の生産・在庫調整
4. 円高・為替市場の環境変化
5. 原油価格の急激な下落に伴う  
原燃料及び製品価格下落懸念

### 今後の取り組み

1. 販売の強化
2. 研究開発の強化
3. 生産性の改善による原価低減
4. 財務基盤の強化
5. 設備投資の見直し
6. 経費削減

## 1. 販売の強化

### 1. 顧客とのコミュニケーションを強固にし、シェア保持を図る。

- ・量のカスタマイズ → 顧客要望に柔軟に対応する。
- ・質のカスタマイズ → 顧客の品質要求に対応する。
- ・時間のカスタマイズ → 顧客要望に迅速に対応する。

### 2. 得意分野製品の強みを活かす。



## 2. 研究開発の強化①

### 1. 積極的研究設備投資による迅速な顧客対応

#### 1) 新研究棟を金沢工場に建設:

工場密着型研究の強化による迅速な顧客対応

#### 2) 新パイロットプラント設備を金沢工場に建設:

①技術改良の促進 ②迅速な事業化



新研究棟完成予想図(金沢工場)



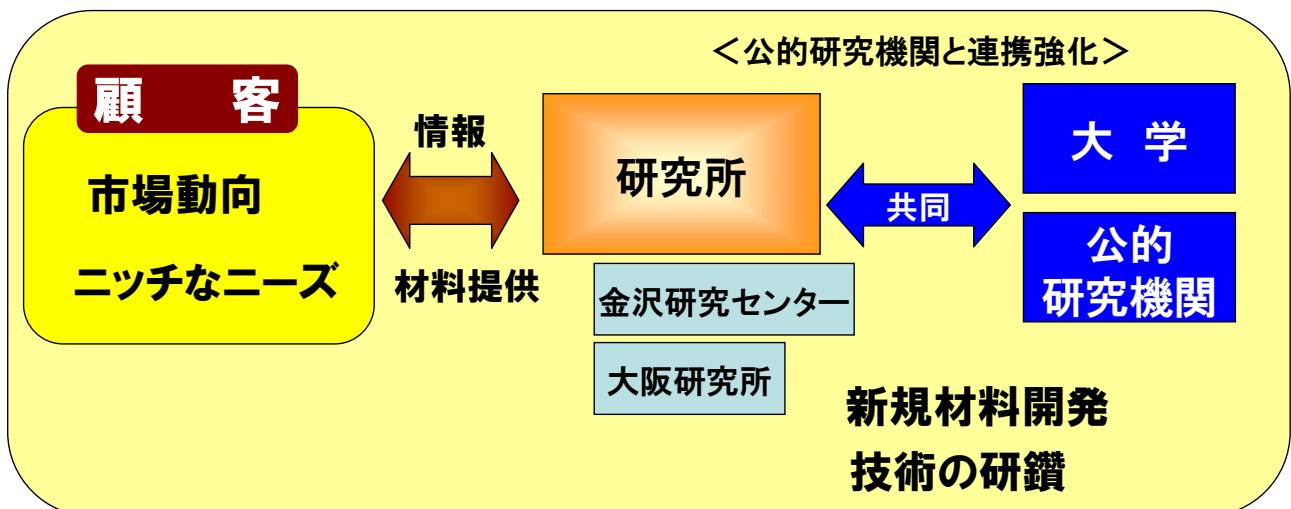
パイロットプラント設備(金沢工場)

## 2. 研究開発の強化②

### 2. 産学連携による新規技術、新規材料開発の促進

1) 記録材料、表示材料、半導体材料、エネルギー関連、ライフサイエンスの5分野において、共同研究を推進。

2) プロジェクト方式による重点研究への資源の集中



### 3. 生産性の改善による原価低減

#### エステル化製品の金沢工場への移管・集約による生産合理化

- 1) 大阪工場で生産している汎用エステル化製品を金沢工場へ移管を推進。  
製造工程の合理化によるコストメリットを確保。
- 2) 大阪工場と金沢工場で併産している製品を金沢工場に集約。  
金沢工場の稼働率上昇によるコスト削減。
- 3) 販売数量の減少で、設備投資なき製品の製造移管が加速。  
大阪工場から金沢工場への移管による製造工程の合理化を実現。
- 4) 金沢工場で生産しているエステル化製品の生産性改善検討による  
コスト削減。

### 4. 財務基盤の強化

#### 1. 自己資本比率

**70.8% (2008年度)**

**2009年度以降 70%の維持**

#### 2. コミットメントラインの締結

**中期的(2年間)貸付枠 20億円**

**平成20年11月から平成22年10月**



## 5. 設備投資の見直し

1. 選択と集中により、研究設備投資は積極的に行うが、その他の投資は極力抑える。
2. 大阪工場から他工場への製品の製造移管は、既存設備の有効利用を第一条件とし、コスト削減に取り組む。

## 6. 経費削減

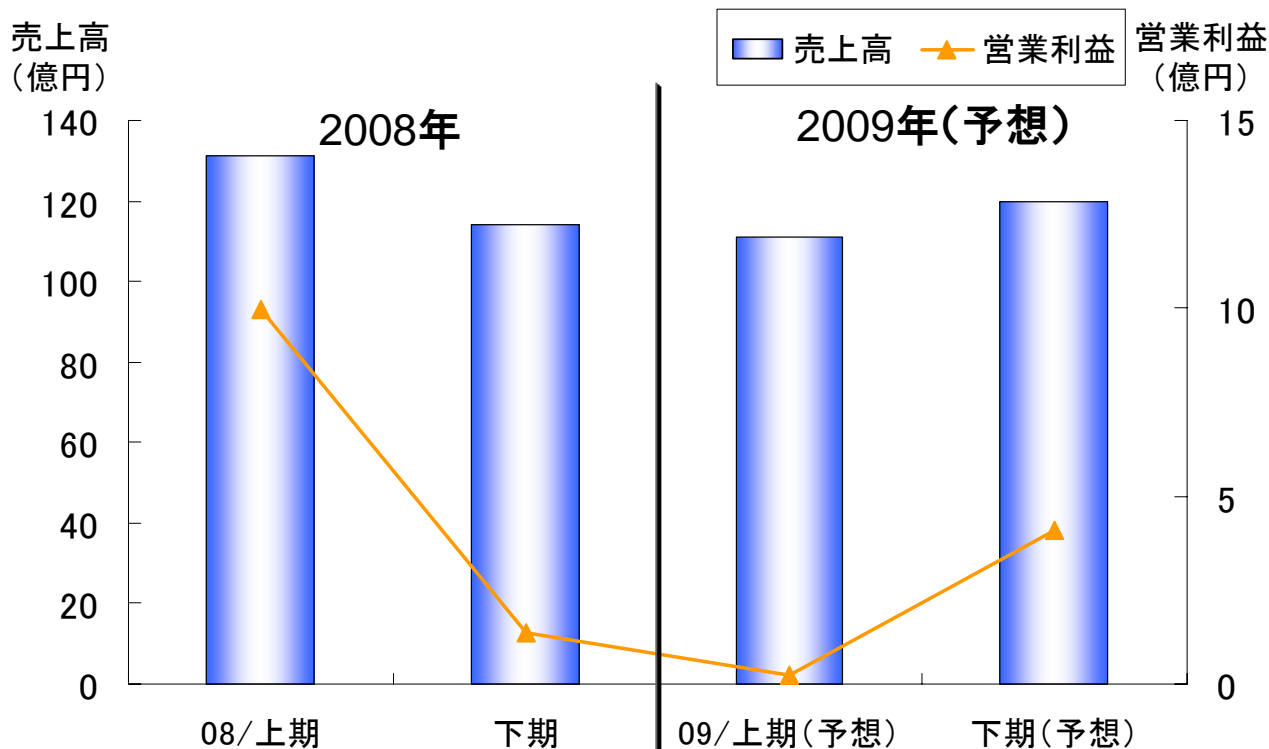
1. 適材適所による人件費削減
2. 設備投資計画の見直しによる  
償却費削減

## 業績予想概要(連結)

(百万円、%)

	08/11	09/11		
		(予想)	増減	前年比
売上高	24,539	23,076	△1,463	94.0
営業利益	1,133	432	△701	38.1
経常利益	1,190	479	△711	40.3
当期純利益	331	244	△87	73.7

## 売上高と営業利益の半期推移

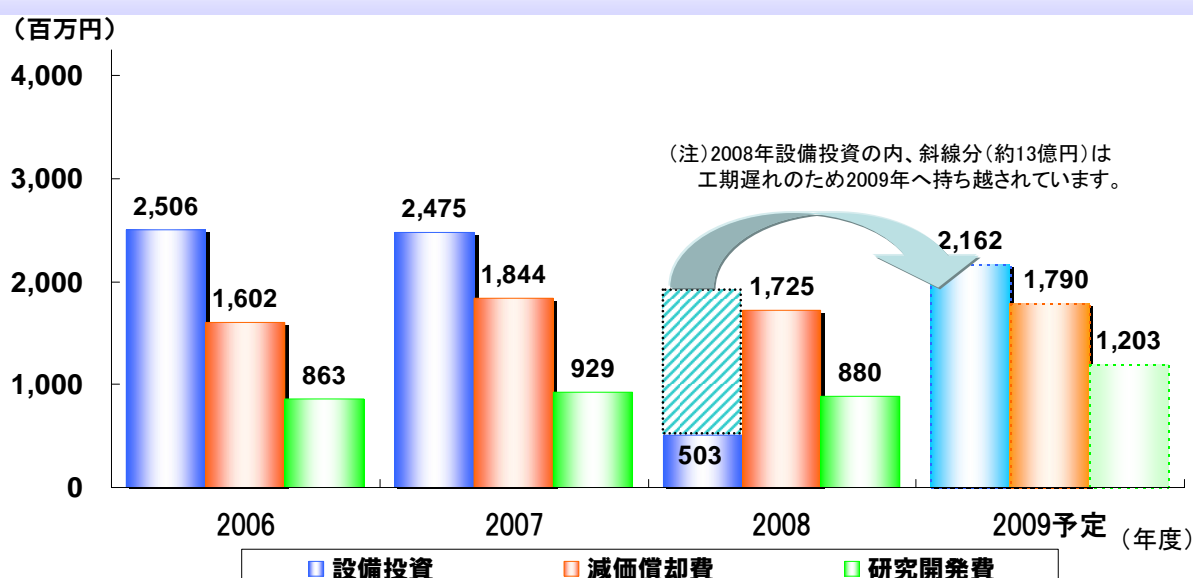


## 部門別売上高予想(連結)

	(百万円、%)			<ご参考> 08/11末 (実績)
	09/11通期 (予想)	増減	前年比	
売上高	23,076	-1,463	94.0	24,539
エステル化製品部門	11,838	-203	98.3	12,041
特殊化学品部門	9,974	-1,195	89.3	11,169
有機合成品部門	1,118	-40	96.5	1,158
営業利益	432	-701	38.1	1,133

- エステル化製品部門……前年比98.3%
  - ほぼ横ばい。
- 特殊化学品部門……前年比89.3%
  - 電子材料G及びその他ファインの減少。
- 有機合成品部門……前年比96.5%
  - ほぼ横ばい。

## 設備投資・減価償却・研究開発費



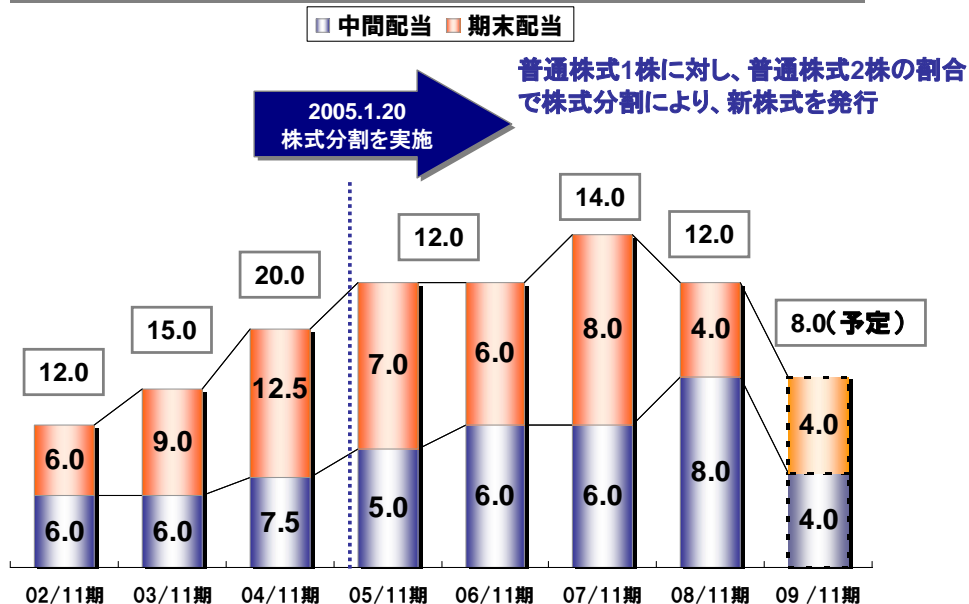
- 主な設備投資案件(2009/11期)
  - 金沢工場 新パイロットプラント設備
  - 金沢工場 新研究棟
  - 金沢工場 副生油処理設備(廃油の燃料化設備)

# 1株当たり配当金(実績と予想)

## ■利益配分に関する基本方針

配当額 : 業績や今後の事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定。  
内部留保: 将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用。

## 1株当たりの配当金の推移と予想



## III. 成長戦略・ 中期事業計画の状況

## 特殊アクリル酸エステルを中核に発展



## 成長戦略の基本軸

### 選択と集中による持続的な成長力の構築

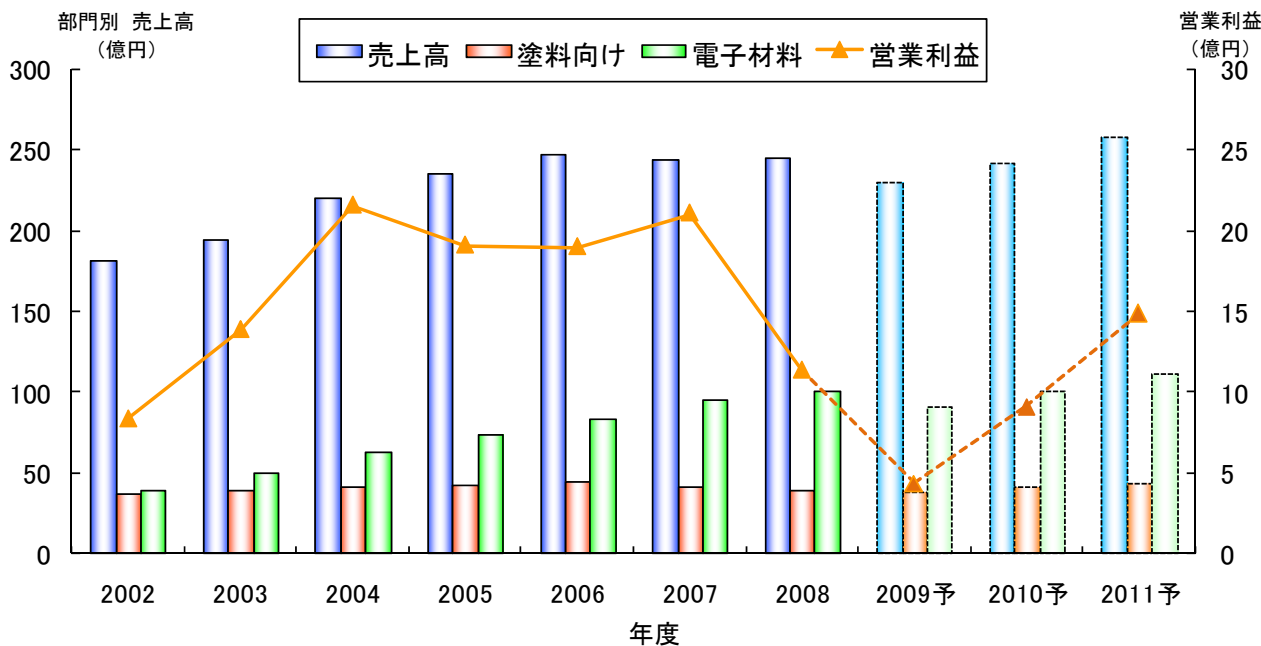
- I. 新製品開発のための技術力の強化
- II. コスト・品質競争力の向上
- III. 顧客の拡大とマーケティングの充実

### 企業の社会的責任の実現と企業価値の向上

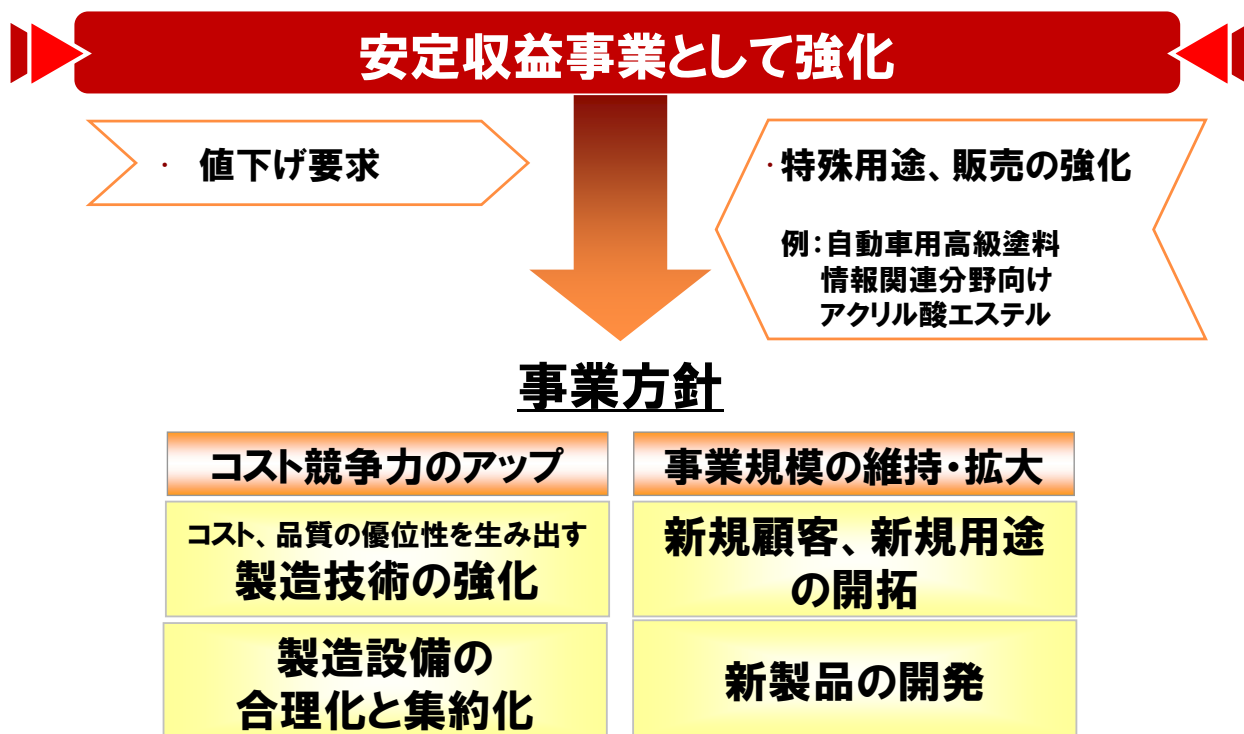
- IV. 安全・環境・コンプライアンスの重視
- V. コーポレートガバナンスの充実
- VI. 財務体質の強化

# 当社の現状と今後

## 部門別売上高と連結営業利益の推移



## 方針①:アクリル酸エステル製品





## 方針②:電子材料分野

### 利益拡大のメインエンジンとして強化

・エレクトロニクス技術の  
変化スピード、陳腐化リスク  
・需要変動の大きさ

・フォトリソグラフィ技術の  
高精細化に伴う市場の拡大

#### 事業方針

今期～中期の視点	中長期的な視点
要求特性・品質への タイムリーな対応	次世代電子材料開発 ・ホログラムメモリー ・位相差材料
海外展開の強化	表示材料関連 ・EL材料への展開

## 方針③:環境対応及び基盤技術

### 環境対応と基盤技術拡充への強化

・環境負荷低減技術

・基盤技術拡充

#### 重点項目

##### 技術的な視点

エネルギー・廃棄物量の削減  
(廃油の燃料化設備)

##### 公的研究機関との 共同研究による基礎技術拡充

・エステル化製品の製法  
・新規製造技術  
・生体適合材料  
・表示材料

これらの開発

# アクリル酸エステルを基盤にした展開

事業方針:アクリル酸エステルを基盤にした  
電子材料分野・メディカル材料分野における事業の拡大

## LCD材料

- ・位相差材料(色補償材料)
- ・オーバーコート(RGB着色剤保護膜)
- ・柱状スペーサーレジスト
- ・着色レジスト原料  
(ディスプレイ用RGB)

## 記録媒体材料

- ・次世代記録材料  
(大容量化メモリー材料)
- ・ブルーレイ用材料  
(ディスクコーティング剤)
- ・DVD用材料(ディスク接着剤)

## アクリル酸 エステル

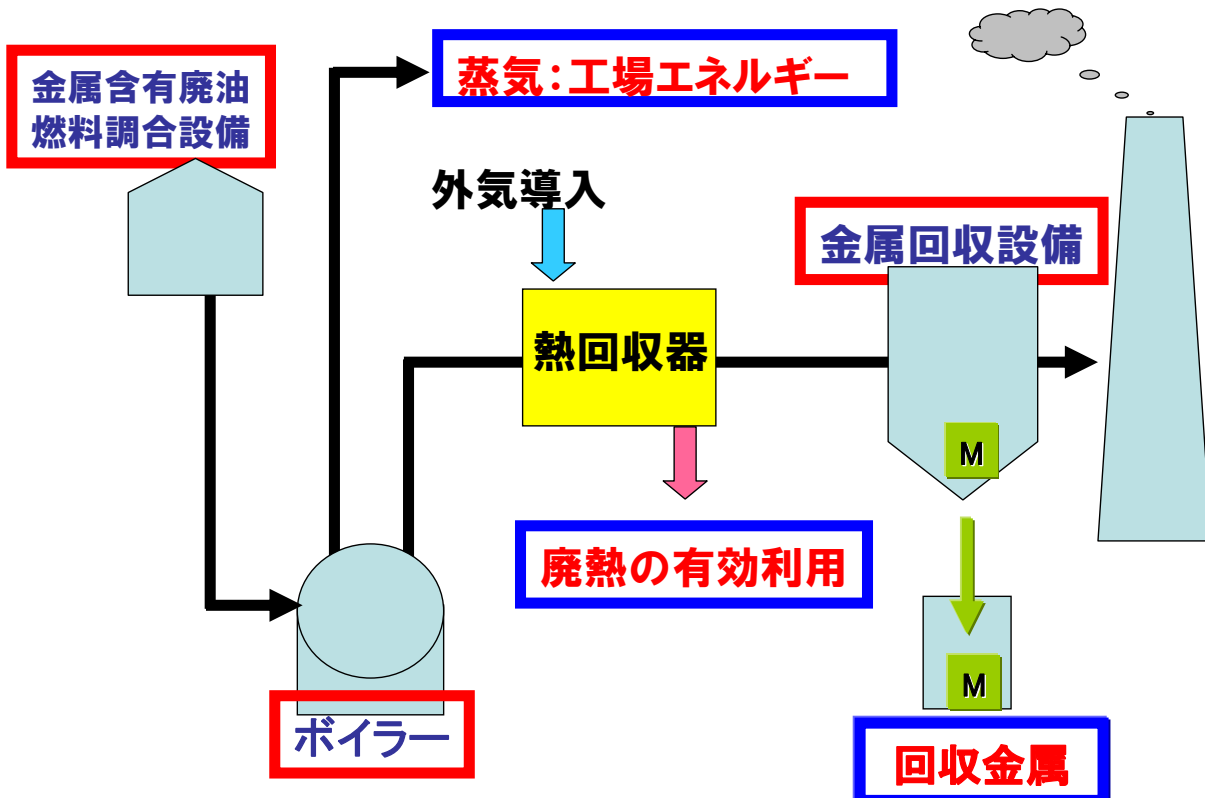
- ・ArFモノマー  
(大規模集積回路作製レジスト材料)
- ・半導体周辺材料  
(半導体パッケージ作製材料)
- ・液浸用ArFモノマー  
(次世代超集積回路作製用レジスト材料)

- ・化粧品ポリマー  
(頭髪用:ジェル、ムース等)
- ・医薬中間体  
(消炎鎮痛剤、抗生物質中間体)
- ・生体適合材料  
(人工臓器、関節、血管、バイオチップ)

## 半導体材料

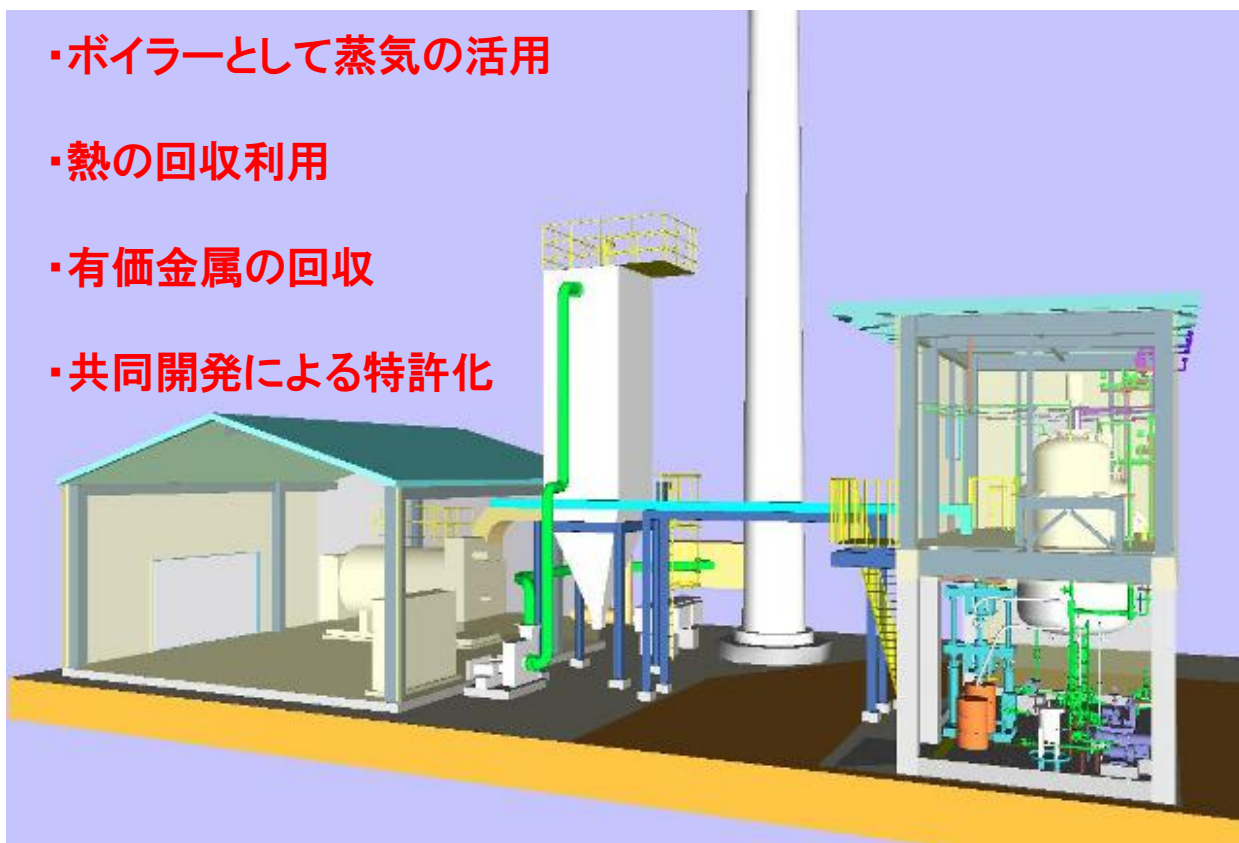
## メディカル材料

# 廃油の燃料化設備について①



## 廃油の燃料化設備について②

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・熱の回収利用
- ・有価金属の回収
- ・共同開発による特許化



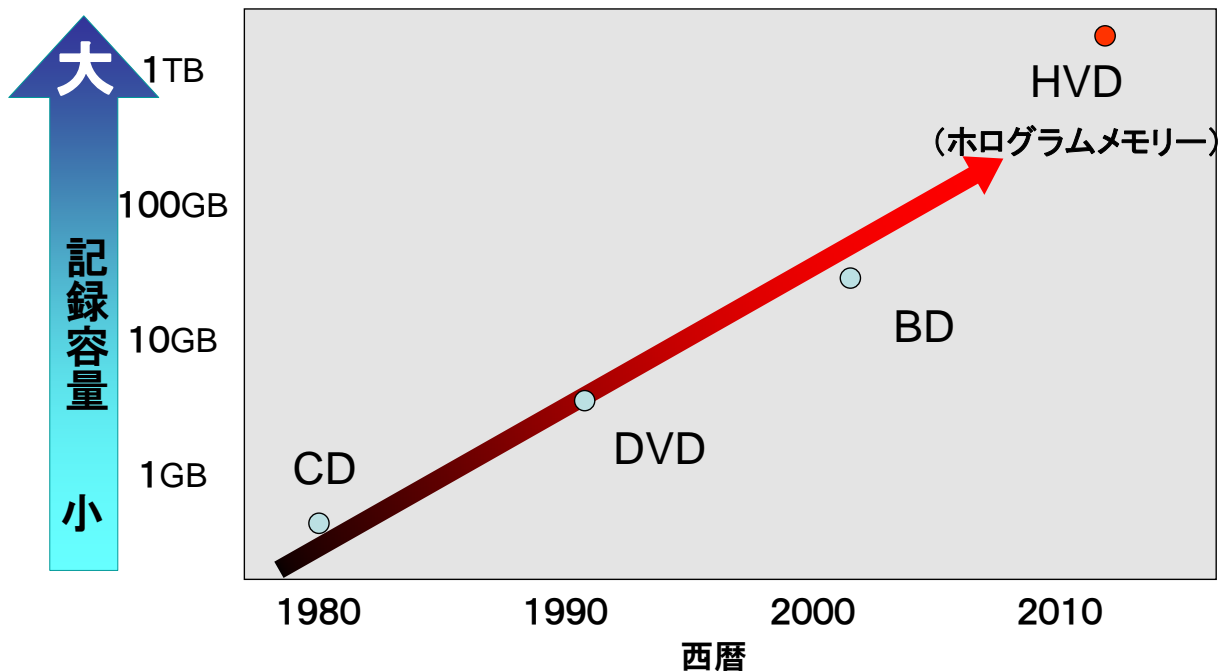
大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ご参考1 大容量化を目指した次世代光学記録材料技術

アクリルモノマーの光硬化性を利用したホログラムメモリー材料の開発を目指した取り組み<共同研究>



## ご参考2 方針③-1 環境負荷低減技術

エステル化製品製法開発による高効率法への転換

エステル化製品製法開発 ⇒ 反応触媒の探索研究

- ・廃棄物削減 : 製造工程発生廃水ゼロ
- ・エネルギー効率の大幅な改善
- ・生産性の向上とコスト削減

例: 従来法収率85% ⇒ 新法収率97%

## ご参考3 方針③-II 環境負荷低減技術

### 製造技術の開発<共同研究> 微細流路で連続反応を行うマイクロフロー技術

低環境負荷・省スペース・省エネルギー  
高選択的な化学合成プロセスを実現

例: バッチシステムで超低温(-80°C)を必要とする反応

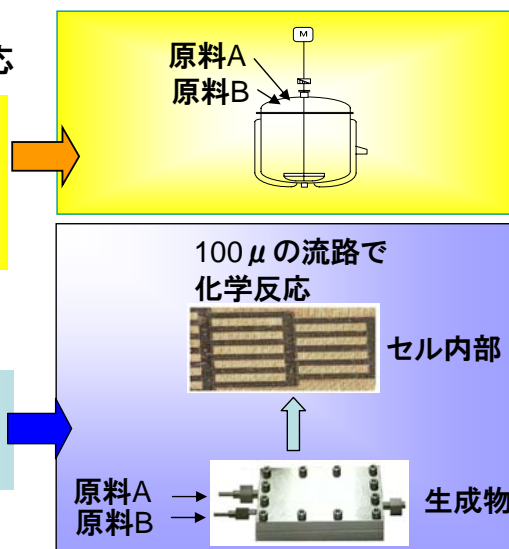
従来の製造装置(バッチシステム)

-30°C⇒収率39%

-80°C⇒収率95%

新規製造設備マイクロフローシステム

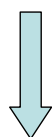
-30°C⇒収率97%



## ご参考4 方針③-III 生体適合材料

ヘアケア商品用に開発した新規モノマー(エステル化製品)  
の生体適合材料への展開<共同研究>

蛋白質が付着しにくい樹脂  
(ポリマー)の開発



血栓が出来にくい等、  
この性質を利用

生体材料、バイオチップ材料等  
体液関連産業への展開

<2007年共同研究成果> 学術論文: 4件投稿 学会発表: 9件、特許5件出願

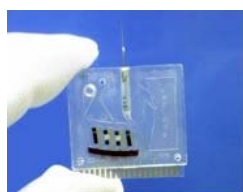
## ご参考5 方針③-III 生体適合材料

### 生体適合材料でバイオチップの流路表面を改質する

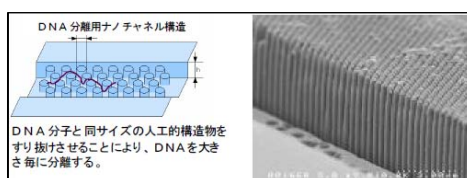
〈期待できる効果〉

流路表面に血液由来のタンパク質、血小板、生細胞などが付着(吸着)しないので、長時間使用しても流速が変わらない。詰まり(血栓)が起きにくい。

タンパクチップ、DNAチップ、糖鎖チップなどの吸着を避けたい箇所の表面被覆



バイオチップ



DNA分離用ナノチャンネル



埋込式バイオセンサー

## ご参考6 方針③-III 生体適合材料

### 生体適合材料で人工臓器や人工血管の表面を改質する

〈期待できる効果〉

表面にタンパク質由来の汚れが付着(吸着)しないので、

体内での長期間使用に耐えることができる。

補体活性が少ないので、拒絶反応やアレルギー反応を起こしにくい。

人工血管、カテーテル、人工臓器、人工透析膜、人工皮膚、人口骨(間接部など)の表面被覆



人工関節



人工心臓



人工透析フィルター